

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Phone 045-894-7474

古代人？ の製材作業

12月発行のZFC通信に「古代人の伐採作業」巻頭言があり、大変興味深く読みました。それならば古代人は伐採後の製材はどのように？と思い、少し調べて見ましたのでその内容を紹介します。

まず、歴史上古代とはどこ迄を指すかと言うと、色々と意見が分かれるようですので、ここでは一つの指標として、現在製材を行うために当たり前のように使われている鉄製(鋼?)のノコギリが無かった時代を古代と仮定します。

日本でノコギリが使用されるように成ったのは約800年前の鎌倉時代以降と言われてます。それも初期には丸太や木材を横に切るだけの簡易的な横引き鋸だけで、木材を縦に挽き割る事は出来ませんでした。二人挽きの大型縦挽き鋸「大鋸(おが)」が大陸や朝鮮半島から伝来したのは、14世紀室町時代に入ってからと書かれています。

それでは、鎌倉時代より数百年前に建立された世界遺産でもある法隆寺、薬師寺の建造材はどのようにして製材したのでしょうか？ その当時、伐採した木材から板材や角材を作り出す場合、「打ち割り法」と呼ばれる方法で必要材を得ていたようです。その方法とは、

- イ) 丸太材の縦方向にノミで何力所もの穴を穿ち、その穴に木の楔を打ち込んで割る、
- ロ) 木目に沿って全長にわたり2~3cmの間隔でノミを打ち込んだ後、裏からも同様にノミを打ち込み、最後に木口より楔を打ち込み材を割る。このどちらかでした。

このため、「打ち割り法」しか製材方法が無かった時代(古代?)には、必然的に木目が通っていて挽割りやすい杉、檜のような針葉樹が建材として重要な位置を占めたとのこと。

一例として、法隆寺においては柱はもとより戸板、窓格子に至るまで、樹齢2千年級の檜の巨材を斧で断ち切り、楔で打ち割ることによって素材を得ています。板材を作るにはこの打ち割り作業をひたすらに繰り返す事に成ります。さらに、これらの素材の面は当然粗いまです。そのため次の作業として、先ず鉦(ちょうな)で粗削りし、そのあと槍鉋で表面を平らに仕上げる必要がありました。この作業の手間ひまを考えると想像を絶するものですが、これらの作業風景は、後年描かれた「富嶽三十六景・遠江山中」や「石山寺縁起絵巻」でも確認出来ます。

鉦(ちょうな)だけの仕上げ面では打ち込み痕、槍鉋で仕上げられた表面には独特の小波状凸凹の美しい紋様が残ります。皆さんも身近に古い寺社がありましたら、今一度そこを訪ね創建を調べて見ると、ひょっとすると古代人の作業痕跡を再発見できるかも、。。。。。

1. 2月の主な活動内容

- ①1月20日(水) 11名 SF準備、炭材詰め
- ②1月23日(土) 16名 間伐体験会、ドラム缶炭焼、ZFC通信印刷発送、ZFC新年会
- ③1月27日(水) 12名 SF準備
- ④1月30日(土) 7名 炭窯出し、SF準備
- ⑤2月3日(水) 11名 SF準備
- ⑥2月6日(土) 17名 ホダギ搬入、垣根づくり、SF準備
- ⑦2月10日(水) 11名 SF準備
- ⑧2月13日(土) 19名 炭材準備、垣根づくり、アベマキ伐倒、SF準備
- ⑨2月17日(水) 12名 SF準備
- ⑩2月20日(土) 14名 ドラム缶炭焼き、池ノ上草刈り、垣根づくり、運営会

2. 運営会の報告

- ①「たたら製鉄イベント」構想案について意見交換を行なうとともに、友の会の理事会、運営会で説明することになった。

3. 3月活動予定

- ①2月24日(水) SF準備
- ②2月27日(土) 炭焼、垣根づくり、アラカシ伐倒、ZFC通信印刷発送
- ③3月2日(水) SF準備
- ④3月5日(土) SF準備、炭出し、炭小屋裏間伐材の整理
- ⑤3月9日(水) SF準備
- ⑥3月12日(土) SF準備、池ノ上草刈り
- ⑦3月16日(水) SF準備
- ⑧3月19日(土) SF準備、シイタケホダギ駒打ち、運営会、安全講習
- ⑨3月23日(水) SF準備
- ⑩3月26日(土) SF準備、ZFC通信印刷発送
- ⑪3月29日(水) SF準備

以上